

○13番（阿部裕和君）

子育ての満足度が上がるという、そこからぶれなければ申請は通るというふうに受け止めました。

あと今回のように行政側の、ある種行政側の都合ですよね、行政側の都合で一方的に計画を破棄、解約するということは、したことは、前例として何かありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

ちょっと私のほうでは、過去の事例といったところでは承知しておりませんので、お答えできません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

関連質問、関原議員の関連質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

阿部議員の関連質問が終了いたしました。

ほかに関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

以上で、関原議員の一般質問を終了いたします。

午後2時30分まで暫時休憩いたします。

〈午後2時17分 休憩〉

〈午後2時30分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。〔15番 田原 実君登壇〕

○15番（田原 実君）

創生クラブ所属、田原 実です。

久保田市長への初めての一般質問となります。

私は、これまで22年間、市民の声を議会に届けてまいりました。とりわけ18年前の旧姫川病院の突然の閉院事件以来、地域医療体制と救急医療の確保を訴えてまいりました。昨年は、厚生連糸魚川総合病院の経営が大変ということで、新潟県に要請し、支援を受け、市からの支援も強くして、糸魚川総合病院存続に取り組みましたが、この先、さらに病院の利用者が減れば、救急医療も市民が望む診療科の確保もますます厳しくなっております。

私は、ずっと以前より申し上げていますが、これは、病院だけの問題でなく、政治の問題です。市、県、国、議会、医療機関、医療関係者、市民が一緒になって、医療体制を再構築し、基幹病院を再生し、存続させる必要があると、私は、この場より改めて訴えます。

それには、まず、財源の確保です。そのために糸魚川総合病院を公立化する必要があります。県の医療構想と上越圏域の病院再編の中で、厚生連の公的な病院から公立の病院として位置づけをして、糸魚川に総合病院を存続させ、市民が望む医療体制をつくっていく。

加えて、富山大学との連携をさらに強め、公立の黒部市民病院やあさひ総合病院との連携を強め、糸魚川市民が、いつそちらに行っても確かな医療が受けられるように、上越、糸魚川、富山県東部をつなぐ広域医療体制を形にしていく必要があります。上越の医療圏域、そして富山県の医療圏域、この狭間にある糸魚川が、医療の空白地域ではなくて、二つの医療圏域が重なる広域の医療圏域の真ん中に糸魚川総合病院がある、そのようなモデルを考えて、県や国からの支援を受けられる医療体制を構築できないかと、田原 実を考えます。

当然、ハードルは高いと思います。安易にできるものではないことは分かっています。

しかしながら、そういったことを考え、進めていかない限り、糸魚川の明日の医療体制はなくなってしまうという危機感を持っています。それと同時に、私が重要と考えるのは、市民の意識改革です。こちらもぜひお願いしたい。

市民からの病院への様々な苦情を私も聞いております。その苦情を議会で述べられる議員もおられますが、経営が大変な中で、医師、看護師を確保して、診療科を存続する。その大変さをお分かりの上でのことなのでしょうか。

もしこの状態が進んだとき、糸魚川に基幹病院がなくなることを田原 実心配します。そうあってはいけません。糸魚川には、糸魚川総合病院が必ず必要です。市民一人一人に寄り添う医療があり、市民が安心して暮らせるまち糸魚川、一緒につくってまいりましょう。

以上が、明日の医療確保とまちの再生のための市議壇上からの田原 実の訴えでございます。

では、発言通告書に基づき質問をいたします。

1、明日の医療を守る、糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について。

糸魚川市の著しい人口減少による様々な影響が顕著になっています。特に医療、教育、産業のダウンサイジングは、さらに人口減少に拍車をかけるものと心配しています。その一方、10年後の人口3万人を見据え、まちづくりの主役である市民が意識と行動を変えていくことで、糸魚川で夢を持ち、幸せに暮らせることを示し実践することは市長行政と議会議員の責務と考えます。その認識の下、糸魚川市の最重要課題である、これからの地域医療確保について質問します。

(1) 公的な病院から公立病院へ。人口減少の影響が著しい糸魚川総合病院の持続と救急医療対

応について伺います。

(2) 新潟県地域医療構想と上越圏域病院再編、富山県に接することを生かし連携する広域医療圏、県外大学・医療機関との連携による新しい医療体制づくりについて伺います。

(3) 糸魚川総合病院への様々な市民の声と行政対応、今後診療科が減ることへの市民理解（医療教育）の進め方について伺います。

(4) 私は3月の議会においても同じ内容で米田市長に質問しました。旧市政とは違う、新しい取組をお考えであれば、違いをお示しいただきたく伺います。

2、久保田市長の新しいまちづくり、糸魚川のまち再生と発展について。

糸魚川の再生と発展、そのための新しい政治、久保田市長に寄せられる市民の期待は大きなものがあります。また、糸魚川市が直面する様々な問題、成果を生まなかった事業への抜本的な対応にも市民は注目しています。久保田市長のマニフェストへの記載事項、市長選挙当選後のスピーチや所信表明の中から、今回は以下の取組について質問し、市長のお考えを伺います。

(1) 久保田市長の考える経済活性化策、サテライトキャンパス構想、第一次産業の未来を開くオーガニック・ヴィレッジ、観光資源の整備やふるさと納税の活用、特定資金源の確保について伺います。

(2) 観光資源や伝統文化など地域の特徴を最大限に生かしたまちの再生、宿場町としての歴史を引き出しながら、交流人口の増加を目指す政策について伺います。

(3) 市長選挙、市議会議員選挙の論点となった駅北子育て支援複合施設建設の見直しと久保田市長の代案について伺います。

3、糸魚川市の行政・財政・組織改革について。

新しい市長が人口減少社会に対応した『まちづくり』を進めるに当たり、現状を把握した上で、行政サービスの向上を図らなければなりません。

また、施策を実践するための財源確保の課題、そして事業を展開するための組織体制の見直しが必要であると考えます。

以下の取組について質問し、市長のお考えを伺います。

(1) 行政改革について久保田市長の公約では、縮小しても充実した社会を目指す「縮充」という考えを示されていますが、充実した社会形成に向かって行政改革をどのような視点で進めるのか伺います。

(2) 財政改革について今後、新たな施策を展開するためには、財源の課題が重要です。既に職員からの説明は受けているとは存じますが、新市長の財政運営に対する考えを伺います。

(3) 組織改革について糸魚川市の組織機構は、米田市長が構築しそれを進めています。久保田市長が公約に掲げた施策を推進するためには組織体制の見直しが必要と考えます。令和8年度に向けて組織機構を見直すお考えがあるか伺います。

以上、1回目の質問です。

質問は、いずれも糸魚川市が直面する重要課題です。久保田市長におかれましては、その解決に待ったなし、先送りなしの対応で取り組んでいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、病院では、厳しい経営状況からの脱却を目指し、最大限の自助努力による経営改善に取り組んでいるところであります。

経営安定化までの間、市としましては、引き続き、県と連携して必要な支援を行い、救急医療を含めた基幹病院としての機能を維持できるように取り組んでまいります。

2 点目につきましては、持続可能な地域医療体制の確保と質の高い医療提供に向け、富山大学と連携した、より魅力ある病院づくりや切れ目のない医療機関との連携は必要であることから、県が進める地域医療構想の中で体制づくりに取り組んでまいります。

また、医師の確保や診療科の維持に向けて、他の大学との連携についても積極的に取り組んでまいります。

3 点目につきましては、基幹病院としての医療機能を維持できるよう取り組んでいるところであり、地域医療構想の中での検討状況も含め、適切な時期に説明会を開催し、市民の皆様の声をお聞きするなど、丁寧な周知に努めてまいります。

4 点目につきましては、引き続き、地域医療を担うかかりつけ医の確保やオンライン診療体制の構築などに努め、安全・安心な医療体制の維持・確保に向けて取組を進めてまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、当市には雄大な自然や豊かな文化資源をはじめ、地域で育まれた様々な資源があります。水産業など一次産業においても潜在能力の高い資源がそろっております。これらの地域資源を、様々な業種やサテライトキャンパスに資する大学等と連携させることで、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ってまいります。

また、当市の主な返礼品は米であります。米以外の返礼品につきましても、生産者と協力して磨き上げ、多くの皆様からご寄附いただけるよう取り組んでまいります。

2 点目につきましては、各地域の特色や人のつながりを生かし、ブランディングと魅力発信の推進により、交流人口から関係人口へ発展させたいと考えております。

3 点目につきましては、現計画での建物建設は中止し、既存建物の解体を進め、改めて汎用性を持たせた代替案を検討したいものであり、具体案がまとまりましたらお示しいたします。

3 番目の 1 点目につきましては、限られた財源を効率的に活用し、最大の効果が得られるよう取り組んでまいります。

2 点目につきましては、人口減少が進む状況下では、市税や地方交付税などの減少が見込まれることから、今後、財政規模は徐々に縮小していくものと推測しております。引き続き、歳入の確保と歳出の適正化に努め、持続可能な財政運営に取り組んでまいります。

3 点目につきましては、「住みたいまち」、「住み続けたいまち」の実現を目指して、様々な課題に対応できる組織体制へ見直してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

再質問は、順番を変えまして質問の3、糸魚川市の行政財政組織改革からお願いします。

第4次糸魚川市行政改革大綱では、持続可能なまちづくりを進めるためには、健全かつ効果的・効率的な行財政運営が必要とされています。多様な市民ニーズに柔軟に対応するためには、現状の公共サービスや公共施設の目的や在り方を改めて確認し、必要な見直しを行っていくとあります。これを踏まえて、以下、再質問します。

行政改革についてでは、市民サービスの向上、つまり公共サービスの質を高めていくことであると。ならば、そのための見直しというものが必要と考えますが、この辺り、久保田市長は何から取り組むお考えか、具体的な事柄でご答弁いただきたく、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

具体的な事項でご答弁いただきたくということの質問でございますので、これが具体的に資するかどうかについては、またご検討していただきたいと思います。

まず、基本的に、人生というのは、揺り籠から墓場までというスパンで、人生というのが考えられます。それぞれ一人一人のことがございます。その中においていえば、やはり最初に誕生したときから終生、終わるとこまでの段階で、必要な場所はどこにあるのか。まず、教育をする場、そして病院、この2点のところが、基本的にいえば、具体的な事項に取り組んでいく材料がそこにあるというふうに思っております。それに伴う教育を受ける、医療を受けるという中においてのいろいろな交通インフラの問題、欠かせないものがそこにあるという部分で、その中においての具体的な部分が、それぞれ浮き出てくると思います。それについては多く、細かく言えば多くありますので、まず、教育と病院に関する部分の具体的な事柄について検討をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

理解しました。

市長は、バックキャスティングという考えを言われていましたが、これからの未来は、人口、税収ともに右肩上がりの時代ではないと考えます。そういった背景からしても、今後は、市長が言われる縮充に向かわざるを得ません。行政改革大綱の基本方針にあります公共施設の在り方についても、縮充していかれると思います。これをバックキャスティングで、何年先の将来の姿を見据えて取組を進めていくのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

公共施設の在り方ということですので、私のほうから回答させていただきます。

まず現在、市の公共施設等総合管理指針に基づき、人口規模に応じた適正な施設量となるよう、10年後と数値目標を定めて取り組んでおります。現時点では、30年後の令和37年までの目標を定めておりますが、まずは10年後を見据え、この取組を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

スタッフの充実となれば、人件費は削減できない。コンテンツの充実となれば、これまでどおりかそれ以上に、外部委託の事業費やコンサルタントへの外注費がかかるとも取れますが、これまでの外部委託、外注経費が、果たして公共サービスの質を上げたかどうかは疑問です。

また、支出額と成果とのバランスを考えてきたかどうか。この点、市民が納得できるような行政改革を進めてほしいと思います。この辺り、久保田市政では、どのように進めていくのかが問われます。これについては、総務部長からご答弁いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嶋田総務部長。〔総務部長 嶋田 猛君登壇〕

○総務部長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

業務を行うに当たっては、職員が持つ技術や人員、また時間で対応できるものは職員が行い、一方、職員が持ち得ない技術、ノウハウ、また時間的制約、定型的な業務については、外部委託が考えられます。これまで学童保育であるとか図書館の窓口業務など、外部委託によりまして新たなアイデアを取り入れたことによりまして、利用者の満足度が上がっているといった事例もあります。現行の行政改革の大綱の基本方針は、成果を重視した持続可能な行政運営であります。成果を上げるためにコストは無限ということではありません。成果をどれくらいのレベルに設定するか、それに見合ったコストはどれくらいに設定するか、常に成果、またコストのバランスを取りながら業務を進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

次に、（2）財政改革について伺います。

議長にお許しをいただき、糸魚川市の基金残高の推移の資料を議員の机上に配付したのでご覧ください。

これがその資料であります。一見、基金は充足されているように見えます。着目すべきは、財政

調整基金と当初予算です。今回、その点のみ伺いますが、そもそも財政調整基金とは何か、すみませんが、財政課長より、概略を解説いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

では、ご説明します。

まず、財政調整基金の目的でございますが、糸魚川市基金条例第2条で、地方財政法第4条の3第1項及び第7条第1項の規定による積立て、その他必要な積立てを行うことにより、財政の健全な運営に資するというふうに定めており、具体的には、地方財政法で、災害により生じた経費の財源や災害により生じた減収を埋めるための財源として、また、翌年度以降における財政の健全な運営に資するため積み立てるなどと定められております。これに基づきまして、年度間の一般財源の調整を、この基金で行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

さて、令和5年度から令和7年度の糸魚川市一般会計当初予算を見ますと、財政調整基金を多く充当して、予算編成を行っています。充当した財政調整基金の額は、令和5年度、4億2,000万円、令和6年度、5億9,000万円、令和7年度、8億7,000万円かと思いますが、ご確認願います。

私の感覚では、財政調整基金は主に不測の事態に対応するための、いわゆる突発的な事業に活用するものと思っていましたが、糸魚川市では、当初予算から財政調整基金を充当しなければならない、その背景を財政課長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

塚田財政課長。〔財政課長 塚田修身君登壇〕

○財政課長（塚田修身君）

お答えします。

財政調整基金は、議員おっしゃるとおり、災害など突発的に生じた経費の財源とするほか、年度間の一般財源の調整としても活用しております。現状としましては、歳出面では、人件費や物件費が上昇傾向にあること、歳入面では、令和2年度国勢調査の結果に基づく人口減少分が、交付税算定時に反映されているため、交付税総額はそれ以前に比べまして減少している状況にあります。

また、国においては、地方財政計画上、地方税収が伸びることを見込んでおりまして、地方交付税や臨時財政対策債を抑制しております。

しかしながら、当市においては、当初予算編成時点では、そちらの税収の伸びを見込むのはなかなか難しい状況でございますことから、一般財源の不足額に対しまして、財政調整基金を充当して

おります。

なお、年度末の決算の状況を見込みながら、可能な範囲で基金を積み立て、一定程度の金額を確保できるよう努めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

私の心配は、新しい市長の考えるまちづくりを支える財政運営、予算編成が、これまでのようなものでうまくいくのかということです。見直し、変えていくべきものがあるのではないですか。これまでの経緯をご存じの副市長の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

これまで前市長を支える立場の私がですね、市長が替わってどういったスタンスで取り組むのかというご質問と受け止めました。

今までの行財政運営の取組について、よいものもあると思います。

ただ、人事異動、職員の人事異動に例えますと、例えば課長が変わった場合に、新たな課長が赴任をして、これまでの事業を踏まえながら見直しを当然していくわけです。それを受け入れるという土壌は、市の組織の中にあるというふうに思っています。今回、市長が替わりました。市長の考える方向に進められますように、私も職員と一緒に支えてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

平成17年度の1市2町の合併から10年間は、新市建設計画に沿った公共投資が集中した期間でありました。

しかし、これからは人口減少が進む中、青天井に歳出規模を増やす運営はできないと考えます。今回の私の質問はここにとどめ、あとは所管の委員会での調査にお任せしたいと思いますが、今後の財政運営について、改めて久保田市長の所見を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、端的に言えば、財政負担の可視化、見える化ですね。それと、可視化をした上での選択になろうかと思います。可視化をすると、1人当たりが、人口が4万人のとき1人当たりが100円だったものが3万人になれば、1人当たりの負担が150円になってくる。そんな可視化によって、市民の皆様に現時点の財政がこういう状況ですよ、皆さんの協力なくして糸魚川の市政運営できませんよという部分を丁寧にお伝えできるような形で、これからの財政改革に向けて市民と共に歩んでいきたい、また、議会の皆さんと、そういう部分を検討していきたいと感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

理解いたしました。

次に、（3）組織機構について伺います。

米田市長のときの部長制の在り方について、議会からご意見がございました。3部長制をやめて、課長の権限、すなわち責任を強めて能力を発揮していただくということは、長く議会を経験した私としても、そう思います。部長を残すとすれば総務部長で、副市長をサポートする立場で総務部長は必要と思いますが、いかがですか。仮の話でお答えづらいかもしれませんが、副市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

組織機構とか人事は、市長の権限だというふうに思っています。今回、市長については、自分の掲げる政策の実現に向けて、組織機構を改正していきたいというふうに意思表示をされておりますので、私もその方向に沿って進めていきたいというふうに思っています。まだ、市長と協議を始めたところですね、全体像がなかなかお示しできないものですから、まとまった時点で、また議会のほうにはお示ししていきたいというふうに思っています。

なお、部とか課に関わる部分の改正があるようですと、これは条例事項になりますので、併せて議案等も提案させていただく形になろうかというふうに思っています。これからしっかり市長とお話をしながらですね、組織機構の改正を進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

今さらの話で恐縮ですが、行政の基本姿勢として、市民を大事にしなければならないと考えます。市民の声を聞き、市民に寄り添う市政を実現する。これが市民を大事にすることだと思います。今回の市長選挙では、このことに市民が期待を寄せた、久保田市長に期待したのだと私は感じています。

やれ協議会だとか、やれジオパークだとか、市長が飛び回るのも結構ですが、もっと市民に近いところでちゃんと市民の声を聞いて、新しいまちづくりをしていく必要があります。

そして、それをサポートするのが副市長です。久保田市長の公約、市民との対話でまちづくり、そして、その仕組みづくりを推進するのは副市長です。その点、副市長の所見を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

市長を支える仕組みづくりの役割というふうに今受け止めたんですけども、市内外を含めて、市長へのいろんな会議ですとか出席要請が本当に多くございます。そういった中で、私、久保田市長が就任したときにお願ひしたのは、外と中のバランスをしっかりと取っていただきたいということを申し上げました。というのは、やはり新市長になってですね、中って、これ市内なんですけども、市内にいて、市民の皆さんに対応することも非常に重要だというふうに捉えています。そういったことでは、対外的に、また市長でなければならない部分もあるんですけども、代理で済むようなものもございまして、私とか部・課長が代理で、外部のほうの出席を調整する中で、市長にはできるだけ市内のほうで市民の対話に努めていただきたいというのが、私の思いでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市職員も市民です。市職員からの新しい市長に寄せる期待も大きいと、私は聞いています。久保田市長いかがですか、この質問の最後に、市長の所見を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現在、私を支えていただいている市の職員の皆さん、本当に今、意欲を持って何かを具現化しようという形で動いてくれています。非常に助かっております。市民の皆さんから見た段階では、ワンストップの行政であってほしい。何かをしなきゃいけないときにこの係、この課、次に、また違う係・課に行って、何回も、いわゆる言葉悪いですけど、たらい回しに合うような行政ではいけない。やっぱりワンストップにおいて、市民の皆さんの問題解決、要望解決に向けて、意欲を持って職員が対応できるようにしていきたいという思いであります。現時点でも皆さん一生懸命やってくれてるということを皆さんにお伝えします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

久保田市長は公約に掲げた施策を実現するための体制づくり、組織機構の見直しを力強く進めていただきたい。そのことを私から、改めて要望しておきます。お願いします。

では、質問の1に戻り、糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について再質問いたします。

現在、糸魚川総合病院は、深刻な課題に直面しています。医師不足、看護師不足、そして財源の問題で、このままでは市民が必要な医療を受けられなくなるかもしれないことについて、米田市長に私が問うたときは、2年後はどうなっているか、5年後に糸魚川総合病院はなくなるのではないかと心配するような状況でした。

しかし、私は決して諦めません。私は、糸魚川総合病院を公立病院へと移行させて必要な診療科を残し、救急医療体制を維持することを改めて久保田市長に訴えさせていただきます。米田市長は、私の思いを、それはあなたの想像だと言われましたが、果たしてそうでしょうか。そうじゃないです。糸魚川総合病院存続のための財源の確保、そのための公立化、市民が望む診療科と救急医療体制の維持について、これまでの経緯を知る担当課より、説明をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

これまでもずっとお話しさせていただいておりますが、糸魚川総合病院につきましては、現在JA新潟厚生連が、運営をいたしております。その厚生連が、昨年、ちょうど1年ほど前ですかね、経営状況が非常に厳しいということで、資金ショートを起こすかもしれないというような報道がされ、それから緊急支援の話が出てまいりました。それで、県と一緒に私ども糸魚川市も、緊急支援を今年度実施いたしておりますし、それをもって、何とかこの令和7年度は運営が続けられる状況とはなっておりますが、この後、8年度、9年度については、引き続き緊急支援がないと厳しい状況になっているというふうに認識しております。こんな状態が続くと、私ども糸魚川市としても、いつまでも財政支援を、大きい財政支援を求められても続けることが困難になるということが想定されますので、議員おっしゃるような、公設化についての検討は必要だというふうに考えておりますし、今後、必要な診療科を残す。救急医療を維持するためにも、並行して考えていかなければいけない問題だというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

私は、公立化というふうに申し上げたのを今公設化とおっしゃったんで、その辺、言葉の整理をしながらご答弁いただければと思います。

今は6月ですが、国への要望などは7月から始まると聞いています。医療体制の確保のため、国が示す方針に素早く対応する行政であってほしいと思います。

また、県への働きかけはどうか。危機的な医療の状況を、花角県知事も地元県議会議員も十分ご存じだと思います。米田市長からは、具体的な話を聞いたことはありませんでしたが、その点、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

国への要請につきましては、先ほどほかの議員の答弁のときに申し上げましたが、来週25日に中央要望を実施予定でございまして、これは6市の協議会によるものでございます。関係省庁にお願いに上がります。知事要望につきましては、今8月下旬から9月を目途に日程調整を図っているところとございまして、こちらも6市の協議会の要望活動として実施予定でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

次に、近隣の医療機関との連携強化について伺います。

上越圏域の医療連携として、県立病院とは今後どのような医療体制と変わっていきますか。

また、近接する富山県のあさひ総合病院、黒部市民病院、富山大学などと連携し、広域的な医療体制を構築することについてはいかがですか。

私は、3月議会において、資料を示して質問させていただきました。担当課からは、調査し、検討しますというご答弁をいただいています。これは、市議会議員選挙において、私が市民に訴えたことです。上越、糸魚川、富山東部の広域医療圏域の隙間でなく、真ん中に糸魚川総合病院を位置づけて、医療体制をつくってと、私のSNSでもお伝えしておりますので、担当課も、理事者もご覧いただいていると思います。その後、庁内や医療機関と検討したことがあれば、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

広域的な医療機関との連携ということでございますが、まず、上越圏域、医療圏域については、新潟県が地域医療構想を推し進める中で、上越圏域という単位の中で、私たち、いるわけです。その中で、県立中央病院という病院があって、その病院は県立病院ですので、私ども糸魚川総合病院とは、設置主体が違います。ですが、この圏域の中で、医師であったり医療技術者を派遣してもらう仕組み、そういったものが必要だということは地域医療構想の議論の中でも繰り広げられてお

りますので、そういったことが可能になるような運営主体の在り方というのが、議論の一つになっております。そこが非常に重要なポイントではないかなというふうに思っております。

また、富山県、周辺地域との連携につきましては、以前、田原議員のほうから、あさひ総合病院ですとか黒部市民病院の資料も提供いただきました。私も、私なりに勉強させていただいております。また今後ですね、関係の病院については訪問をさせていただいて、より具体的な研究をさせていただきたいというふうに思っておりますが、現時点で、先ほど少し私の表現の中で、田原議員が公立化といった部分に対して、私、公設という言い方をさせていただきました。公設公営、要は市が病院を持って、市が直接病院を運営することは今非常に厳しいなというふうに思っています。県立病院も同じです。新潟市民病院も同じです。大きな赤字を産んでいます。ですので、公設民営というのは、今後、考え方の中で必要なのではないかなというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

引き続きよろしくお願いいたします。

糸魚川が医療の空白地帯にならないよう、必要な医療を確保する。これ、政治の至上命題です。

確かに医療問題は、すぐに解決できることではなく、形にしにくいことは分かっていますが、私は、久保田市長に本当に期待しています。そして、多くの市民が期待しています。頑張ってください。今現在の市長の思いをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

田原議員の強い医療に関する思い、しっかりと受け止めて、私自身もそういう考えを持って進めていきたい。実際に周辺医療圏域の病院には、私自身、受診を含めて足を運んできました。例えばでいいますと氷見市民病院、これは金沢医科大学がしっかりとしたバックアップ体制、全医療スタッフを金沢医科大学で整えて、公立病院として運営している。

もう一つは、私自身の出身である医療系の大学についても、きちっと自分自身が受診対応をしながら、まさにそういう、今度は糸魚川市のかかりつけ医さん、クリニックさんとダイレクトに情報を結べるような、オンラインで結べるような体制を今後、要望してまいりたいと。まず、そういうふうなスモールステップを踏みながら糸魚川総合病院の機能を、まさに優位なものにしていくという考え方を持っております。

ただ、医療関係についていえば、うかつに手は出せないという表現もありますので、うかつに手を出さないまでも、やはり糸魚川市民にとって必要な医療の確保については、私自身、全力で取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

では、糸魚川の医療の現状に対する声、市民の声に耳を傾け、医療従事者を守ることについて再質問します。

この際、糸魚川総合病院のことと言ってよろしいかと思います。これはとても大事なことです。市民の皆様の声を真摯に受け止めながら、医療従事者の皆様が安心して働ける環境をつくることについて、市行政が何をすべきかということです。本当に大事なことから、担当課長と事前にお話をさせていただいておりますが、担当課長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私の中で、糸魚川総合病院にお勤めの皆さんが安心して働き続けていただくためには、やはり病院の経営の安定というものも当然必要になってまいります。それで今現在、厚生連の不安定な状況の中で、皆さん不安なお気持ちをお持ちの方はいらっしゃるのではないかなというふうに感じておりますし、そんなことで、今後、安心して勤められるということでは、公立化的な考え方も必要になってくると思います。

また、今現在お勤めの皆さん方に対して、支援させていただく、いろいろな制度も持っておりますが、そんなところを皆さんからご活用いただく中で、引き続き、今の糸魚川総合病院の医療業務に当たっていただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

前任の担当課長が今、糸魚川総合病院におられるので、十分な情報交換、意見交換があると拝察します。そういった中でも、4月の市長選挙である候補が、市民に示した糸魚川市総合病院が破綻し、糸魚川の医療崩壊が起こらないように連携して、糸魚川総合病院を支え、久保田市政を支えていただきたいと思います。

そういったことで、できるだけ早く、しかも準備を周到に市民医療フォーラムを開いて糸魚川の2年先の医療確保、5年先の医療体制を市民に示していただきたいのです。それがどれだけ厳しい状況であろうとです。医療フォーラムで市民の声を聞いてください。そして答えてください。様々な課題が出ると思います。その解決に行政が動いてください。市民への対応をどうしていくか、前任の課長とはどんなことを話し合ってきましたか。フォーラムでは、どう対応していきますか、担当課長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、フォーラムについてですけども、ちょっと言葉の整理をさせていただきたいと思います。

私ども毎年、年に1回、2回実施させていただいている地域医療フォーラムという催しにつきましては、医療の専門家、大学の教授であったり、糸魚川総合病院のドクターの先生であったり、の方から、専門家の方から、市民医療講座的な要素でお話をお聞きして、ためになったなというようなところでの目的を持って実施しております。

議員が今おっしゃっているのは、市民との対話、意見を聞くということを主眼におっしゃっているというふうに捉えましたので、今年度につきましては、私ども、今後の糸魚川市の医療体制について、または地域医療構想の進捗状況について、これを市内3地域、糸魚川、能生、青海の地域で説明会を開催することによって、そこで市民の皆様からご意見をいただいたりご質問いただいたりするような機会を設けていきたいというふうに考えておりますので、そこで今の議員のおっしゃるようなことを実現してまいりたいというふうに考えております。前任の課長とは、そういったことを市民に十分な、丁寧な説明をしていく必要があるよねということは常々話しておりますし、これまで前任の課長とは、糸魚川総合病院が運営主体、経営主体がどうであれ、糸魚川総合病院を絶対に糸魚川市に残さなくてはならないというところをしっかりと確認しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

分かりました。

さて、3月定例会で、私は糸魚川総合病院の介護施設なでしこのスペースについて触れています。たしか担当課長からご答弁いただいたと思います。後の質問に続きますので、申し訳ありませんが、いま一度、担当課長からどういった内容だったか説明いただきたい、確認していただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

3月の議会で私が答弁申し上げたのは、なでしこは、介護老人福祉施設ですかね、としての業務を今閉鎖して、今ずっと閉まった状態になっております。唯一使ったのは、新型コロナウイルスのワクチンの接種、集団接種の会場として使用させていただいたのみでございまして、それ以外は、関係省庁の制約の関係で賃借できないというところで、収益を生まない資産であるということをお答えしていると思います。そんな遊休資産を有効活用する必要がありますということを申し上げた

つもりでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

糸魚川総合病院にあるスペースの有効活用ということを、今ここで私ご提案したいと思います。
お聞きください。

なでしこのスペースは、壊さずに使いたい。私は、以前の質問で、糸魚川総合病院を看護専門学校のサテライトとしての活用をと考えていたのですが、先日の久保田市長からのお話では、子育てへの支援にしっかり取り組む。それには、既存の建物の活用を考えるとありました。

そこで、市長公約にある駅北子育て支援複合施設の見直しにおいて、子供が減っているので、既存施設の利用を考えられないか。本当に駅北がふさわしいのか。一貫した子育て支援では、産後ケア、1歳児から3歳未満児、幼児まで、障害児を含む一貫した支援が必要とあることから、市長公約の子育て支援に、糸魚川総合病院のスペースを利用しようという提案であります。

糸魚川総合病院施設において、現在も産後ケアの事業を行っており、この先も安心して産み育てられる環境整備として、糸魚川総合病院の活用はいかがでしょうか。小児科の存続や子供の入院、救急対応、ひいては、これが糸魚川総合病院存続の財源確保のためになっていけばと考えます。この機会に考えていただきたいと思います、担当課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

なでしこの活用についても、今現在、国への要望項目の一つになっておりますし、そういった遊休施設を活用するための、その活用の仕方について、今、議員のほうからご提案がございましたが、そんなことも、もし活用することが可能となれば、検討していく必要があるというふうに捉えております

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

数年後に妊産婦の皆さんが、上越や黒部や市外で出産せざるを得なくなるような事態になる前に、糸魚川総合病院を複合的・集中的に子育て支援の拠点の一つとなるような、病院と市が連携してサービスを展開することは、市長が言われる縮充になるのではないのでしょうか。ぜひご検討いただきたい。この機会に要望しますが、担当課長か市民部長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

旧介護老人保健施設なでしこの部分でございます。

私も同様な考え方で、一度そこに打診をさせていただいたことがありますけども、そのときは、あまりいい返事がいただけなかったというのが事実でございます。

ただ、今また状況が変わっているということもありますので、そういったことも選択肢の一つに入れながら、ちょっと協議・検討してみたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたしますよ。

〈午後 3 時 26 分 休憩〉

〈午後 3 時 26 分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

民間の利益に供するような質問というのは控えてまいりたいと思います。

私は、糸魚川総合病院の存続を願ってと、糸魚川の地域医療を守りたいということでございましたので、何とぞお許しいただきたく、よろしく願いいたします。

では、質問の2、糸魚川のまち再生と発展について、お願いいたします。

市長、駅北子育て支援複合施設の計画は、しっかりと見直しをしてください。それが民意です。この議会の初日に、市長はご自身で、復興まちづくりという観点は基本的には持っている。これまでのまちのにぎわいづくりは尊重すべきだと思っているし、いわゆる複合という中での優先事項もあると思う。子育てに関する部分は、新たな市民ニーズへの対応も進めながら、屋内の遊び場についても、その延長の中で、しっかりと見直ししていくとされています。

さらに市長は、計画敷地の立地については、絶好の角地である。新幹線駅から数百メートル、本町通りやロの字の商店街の駅北の状況を考えれば、そこは汎用的に使われる場所になると思う。その観点で、施設の整備を見直し、最終的には、にぎわいの拠点、子供たちが安心して遊べる場所、いろんな方々が、寄り集える場所にしていきたいと。まずは、あそこの土地利用は危険な既存建物を解体し、更地にした上で、次なる整備計画推進に努めてまいりたい。ご理解いただければとお話

されておりましたが、それでよろしかったか確認をさせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

今議会が始まって、いろいろな議員の方から、この駅北子育て支援複合施設についての質問もございました。その中でお答えしてきた中で、今、田原議員のおっしゃる中身を私自身も説明し、最終的には4つの点の思いを申し述べて、その具体的な具現化について、今行政サイドと詰めて皆さんに、またお示ししたい。

また、その予算についても、こういうふうな使い方が事務方のほうできちっと丁寧に県・国へのもう一度、申請に基づいて行うという部分で、再三、皆さんにお伝えしてまいって、今日に至っております。

最初の表明した部分と、ほぼ私自身は、今回の答弁に含めて、同一的な考えで進めていくというふうに考えておりますので、その辺のところも、今のご質問にあるような、もう少し私自身がしっかりとした答弁でできればいいんですけども、ほぼ田原議員が今おっしゃったことと、今までの議会答弁したことを照らし合わせて、対応していただければと思います。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

私たちは理解しました。近隣住民、市民も、そのように考えると思います。これが民意です。ぜひ強く推し進めてください。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、田原議員の質問が終了いたしました。

関連質問ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

これをもちまして、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変ご苦勞さまでございました。

〈午後3時31分 散会〉